

第3号ふ頭及び周辺地区のにぎわい創出と小樽港観光船ターミナルの完成について

小樽市 産業港湾部 港湾室 港湾整備課

①第3号ふ頭及び周辺再開発計画の概要

小樽港第3号ふ頭は、昭和29年に基部側の第一期部分、昭和42年に先端側の第二期部分が整備され、製材の積出しふ頭として利用されていましたが、現在では、ロシア向けの中古車や水産品等を取扱う物流機能のほか、クルーズ拠点港としても重要な機能を担っています。

こうした時代に応じた機能の変化を踏まえ、第3号ふ頭及び周辺地区を港の景観や水辺を生かしたにぎわいある交流空間とすることにより、小樽観光の新たな魅力の創出を図り、市内経済の活性化につなげるため、第3号ふ頭及び周辺の将来像として平成26年6月に官民で連携して第3号ふ頭及び周辺再開発計画(以下、本再開発計画)を策定しました。



第3号ふ頭及び周辺地区

②第3号ふ頭及び周辺地域のにぎわいの創出について

本再開発計画における目指すべき姿として、「第3号ふ頭は国際旅客船ふ頭を核とする空間、その周辺は観光船乗り場と一体となった交流空間として、第3号ふ頭及び周辺地区全体をにぎわいある国際交流空間とする」としています。

第3号ふ頭では、国直轄事業として平成26年度から14万トン級のクルーズ船に対応する大型クルーズ船対応岸壁の整備や、港湾管理者事業としてクルーズターミナル等の整備を進め、令和6年4月に供用開始となりました。

また、第3号ふ頭周辺では、令和6年3月に、民間の観光商業施設である「小樽国際インフォメーションセンター」がオープンし、この観光商業施設を代表施設、大型クルーズ船対応岸壁等を構成施設とした「みなとオアシス小樽」が令和6年4月に登録認定を受け、さ



クルーズ船(ダイヤモンド・プリンセス)と観光船ターミナル

らなるにぎわいの創出が期待されるところです。

今年度は、第3号ふ頭基部緑地の年度内完成を目標に整備しているところであり、第3号ふ頭及び周辺再開発事業は、令和8年度の完成を目標に進めています。

③小樽港観光船ターミナルの概要とにぎわいの創出について

令和7年8月1日、新たな施設として「小樽港観光船ターミナル」の供用を開始しました。

外観は、屋根先端を緩やかにせり上げることで、未来に向かって大きく発展する小樽の姿を表現した、周辺のシンボリックな建物となっています。

観光船ターミナルの1階には、小樽港内を発着する観光船の券売所や待合所、24時間利用可能なトイレを配置し、2階には、約190m²の多目的ホールや海を眺めながら休憩できるオープンテラスを配置し、観光船の乗客のみならず、市民や観光客が交流できるスペースとしました。

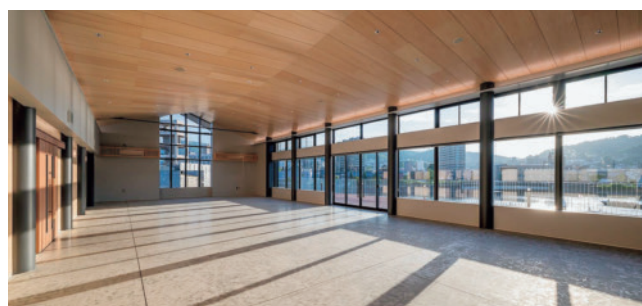
本年8月には、観光船ターミナルのお披露目と昨年度にいただいたポート・オブ・ザ・イヤー2024はじめ、港湾関連三賞の受賞を記念した事業を行いました。帆船「海王丸」の一般公開やキッチンカーイベント等を



観光船ターミナル外観

開催し、多くの来場者にお越しいただいたところです。

令和8年度には、港内で分散している観光船の発着場となる小型船だまりの整備を予定しており、乗船客の利便性や快適性が高まるとともに、更なるにぎわい創出が図られることを期待しています。



観光船ターミナル「多目的ホール」



帆船「海王丸」一般公開

④おわりに

第3号ふ頭及び周辺地区は、昭和42年から現在に至るまで、毎年7月末に小樽市最大の祭りである「おたる潮まつり」の会場にもなっており、令和7年度には、

約85万人の来場者が訪れました。そのほか、さまざまなイベントの開催も可能であり、市内外の来場者によるにぎわいが創出されています。

今後も、第3号ふ頭及び周辺地区を「港を巷に」をコンセプトとして、「みなとオアシス小樽」の整備を行うとともに、市民や観光客等の回遊を促すソフト面の充実など、みなと観光の関連消費を域内経済に波及させる取り組みを官民で連携しながら進めてまいります。



おたる潮まつりの様子



夜間の観光船ターミナル

